

テーマ

次代へつなぎ”輝くふるさと”へ
～地域を知り・守り・つなぐ～

公民館等名

大田市 仁摩公民館

テーマの背景

仁摩公民館では、今までも地域の大人や子どもを対象にふるさと教育を実践してきた。その中で、地域に対する愛着心を育むことをねらいとした事業を大切にしてきた。今回、その愛着心がふるさとを大切にしようとする態度や主体的に地域の課題に向かおうとする態度を育むことにつなげることが持続可能な地域づくりに結びつくものと考え、『知る』から『守り・つなぐ』をテーマに事業を展開した。

実際の取組

取組内容：仁摩防災セミナー

<取組の概要>

地域の食材を活用した非常食づくりを通して、ふるさとの食文化の継承に繋げるとともに、災害に強い安心・安全なまちづくりと地域コミュニティの再生について考えた。また、地域住民が各地区の課題を知り、安心安全なまちづくりをしていこうとする意識の醸成を行った。



<成果と課題>

住民の命を一瞬にして奪う地震、津波、土砂災害などの自然災害から家族や地域を守る避難対策について学び合った。自治会や地域住民が安心・安全なまちづくりを進めていくには、「ご近所づきあい（近助）を大切にすること」「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識をもつことが重要だと気づき、安心・安全なまちづくりをみんなで進めていこうとする機運を高めることができた。

また、非常食づくりでは、伝統的な漬物などの保存食を継承することも地域の防災力を高めていくことに繋がるという住民の意識醸成を図ることができた。

取組内容：歴史講座

<取組の概要>

大田市内の6公民館では、「輝く時代Ⅱ」をテーマにふるさと学習推進事業「大田の歴史」講座を開催している。仁摩公民館では、「石見城（尼子氏）能仁寺（毛利氏の陣屋）の合戦～能仁寺の城跡をたずねて～」と題しフィールドワークを開催し、仁万・天河内の町並みを体感した。



なお、仁摩地域の歴史文化の研究・調査・資料作成・学習会・フィールドワークを通し、地域の歴史を主体的に学習した方々が、その学びを次代を担う親子に還元する活動につなげ、地域の歴史を後世につなぐことも目的としている。

<成果と課題>

- ・自分たちの住む地域について学ぶ機会となり、ふるさとを誇り、ふるさとを愛し地域の課題を発見するなど、次世代がふるさとを考えるきっかけとなった。
- ・歴史講座（大人編）で学んだ“学び”を地域に還元し、若者・子ども達に伝えることで、高齢者・団塊の世代の生きがいがいづくりにつながった。

まとめ

テーマに迫るためのポイント

- ・地域の豊富な教育資源である、ひと、もの、こと、を活用する。（地域の豊かな自然、文化、歴史、魅力に触れ、次代に伝える。）
 - ・子ども達は“地域の宝”地域をあげて学校を応援し子ども達を育てる地域の教育力。
 - ・体験を通して得られる資質・能力をどの時期にどのような体験を通して育むかを考える。
 - ・高齢者、団塊の世代の豊富な知識・経験・知恵を活かし、子どもたちに伝えることで“生きがいくりの場”につなげる。
 - ・歴史講座（大人編）での学びを地域に還元する。
 - ・異世代交流により循環型“絆”社会の構築につなげる。
- 子どもの頃は、楽しみながら学ぶという視点が大切であり、結果的にふるさとへ愛着と誇りをもつということになればよいと思う。

今後の展望

- ・活動を継続することで、地域を愛し、地域を誇り、地域に帰り、地域を支え、地域を創る担い手の育成につなげていきたい。
- ・校区で現在整備中の“道の駅”（2021年完成予定）など新しい時代に向かうまちづくりに向け、より一層ふるさとの魅力を広くPR発信し、ふるさと教育を推進していきたい。
- ・これからも、地域にあるいろいろな宝と子ども達を繋いでいけるよう、ふるさとのひと・もの・ことを活かして、自分の住む地域に対して愛着と誇りを持てる子どもに育てていきたい。

（文責：館長 常松 育夫）